



第76回

競馬・ジャパンカップ(見どころと結果)

※2024年11月の毎日新聞記事を元にした文章です。

校閲し、直すべきところを指摘してください。

東京競馬場で11月24日に行われる中央競馬のジャパンカップ(GI・芝2400m)の出走馬14頭と枠順が決まった。国内のGI馬10頭が集結する秋の一番だ。

注目は外国から参戦する実力馬3頭。英国のオーギュストロダンはGI6勝。英ダービーなど欧米の大レースを制してきた。日本の名馬ディープリンパクト産駒で、これが引退レースになる。5枠8番。

フランスのゴリアットは英国のキングジョージ6世&クイーンエリザベスSの勝ち馬で世界ランキング上位。7枠13番のドイツのファンタステックムーンは独ダービー覇者で、後方からの追い込みが得意だ。迎え撃つ日本勢の代表格はドウデュース。10月の天皇賞・秋を強烈な未

脚で勝ち、GI4勝目。名手・武豊騎手とさらなる戴冠を狙う。3枠3番。スターズオンアースは一昨年の牝馬クラシック3冠のうち、桜花賞とオークス(優駿牝馬)を制した2冠牝馬。チェルヴィニアは今年のオークスと秋華賞を勝った唯一の3歳牝馬だ。天皇賞・秋4着のジャスティンパレス、東京ダービー(東京優駿)3着のシンエンペラーもいて役者はそろっている。

◇ ◇

人馬ともに大きな期待を背負ったレースで、ドウデュースは再び「最強」を証明した。

逃げ馬不在のスローペースの中、道中は後方につけた。少しずつ順位を上げて、ゴールまで残り2ハロンのところで左むちを入れ、先頭に立った。最

後にバテてもおかしくない早めの仕掛けだったが、武騎手は「この馬なら最後まで持ってくれる」と自信を持ってたたき合いを制した。

この日の上がり3ハロンは32秒7。10月の天皇賞・秋も脅威的な末脚で制したばかり。友道康夫調教師が「(レースで)使いつつ良くなっていく馬。これ(天皇賞)以上はないかと思っていたが、より一層良くなっている」とたたえるように、底知れぬ力がある。

ドウデュースは年内での引退が決まっており、デビュー戦から全レースで手綱を取る武騎手は「何とかこの馬でタイトルを取りたい気持ちが強かった。この馬の走りができて、すごくうれしい」と笑顔がこぼれた。